

合同避難訓練 評価報告書

作成日：令和3年12月22日

作成者：学校法人木の実学園

木の実幼稚園

理事長 中矢謙一郎

<総評>

今年で8回目となるこの度の避難訓練も、避難先である垣生中学校はもとより、垣生地区の自主防災会連合会や交通安全協議会、垣生駐在所より御理解と御協力を賜れたおかげで執り行えたものであり、地域の方々へ深く感謝申し上げます。

今回も垣生中学校の先生方と中学2年生の皆さんのご協力により、中学2年生が年長児（5歳児）を校舎4階まで垂直避難させるという合同避難訓練の形を取れ、子どもたちにとって「津波から身を守る」とはどういう行動なのかを体験する大変貴重な機会となりました。

避難訓練は、上述の各会の方々が無事に同行下さったりルートの要所に立って下さったりしたおかげで、今年も大きな事故なく全参加園児が無事に垣生中学校へ到着致しました。最後尾の到着までにかかった時間は、これまでの平均時間とほぼ同じであり、津波被害から身を守るための避難行動にかけられる時間（2時間余り）に対して、十分な時間を確保できていると言えます。右に記す今後の課題等と共に、引き続き訓練を継続する中で小さな改善点を積み重ね、子どもたちの防災教育に努めてまいります。

<記録：避難開始から垣生中学校到達までに要した時間>

平成27年度： 先頭の到着 ⇒ 24分 最後尾の到着 ⇒ 30分（6分差で到着）

平成28年度： 先頭の到着 ⇒ 19分 最後尾の到着 ⇒ 23分（4分差で到着）

平成29年度： 先頭の到着 ⇒ 21分 最後尾の到着 ⇒ 26分（5分差で到着）

令和01年度： 先頭の到着 ⇒ 25分 最後尾の到着 ⇒ 30分（5分差で到着）

令和03年度： 先頭の到着 ⇒ 23分 最後尾の到着 ⇒ 27分（4分差で到着）

避難開始から最後尾到着までの平均時間 ⇒ 27分 * 実施初年度を除く

<個別事案と今後について>

- ・避難時の隊列の組み方は、安定した速度で歩く上で年長（5歳児）と年少（3歳児）がペアになることが大変有効であり、この隊列を定型として維持しています。また、隊列を大きな4つのグループに分割して避難することを今年度も継続しました。過年の反省から出たこの方法は、小さな遅れの蓄積を緩和し、安定した速度で安全に歩行する点に改善が見られております。
- ・隊列を4グループに分けることにより歩行速度が安定し（前のクラスに追いつくための小走り等が減った）、そのため怪我の発生は著しく減少した状態を、今年度も維持できました。
- ・今年度は感染症対策の配慮の一環として、フェイスタオルを使用して中学生と年長児が直接手を握らない方法により垂直避難を体験させて頂きました。次年度においても、配慮を要する場合にはこういった対応を継続します。
- ・女性防火クラブの防災士の方より、「（時間に十分余裕があるのだから）隊列に遅れが生じて、安全を優先して小走りにならないように声掛けした方が良い。」とのアドバイスを頂戴したので、次年度にこの反省を活かしていきます。
- ・南海トラフ大地震の際に発生する津波により、松山地方に第一波が到達（1mの水位上昇）するまでに2時間強の時間があるとされています。東日本大震災の際に大変短い時間で津波が到達した地区地域であっても、命を落とした人がゼロの場所もありました。この事実を踏まえ、訓練の結果に満足せず、学校全体の習慣および約束事として「いざという時の行動」を明確にすべく、今後も訓練・評価・改善を継続していきたいと考えております。今年度も、大変お世話になりました。

（以上）